

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393800020		
法人名	社会福祉法人紫水会		
事業所名	グループホームオーネスト桃花林		
所在地	愛知県小牧市大字上末字道場580-1		
自己評価作成日	平成27年2月14日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2393800020-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成28年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

暖かく支えあい認知症になっても生き生きと暮らして頂きたい、それが私たちの願いです。
 ・現場職員は社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員等の資格を有する者が多く認知症介護への高い見識を持ち、入居者の思いを汲み、日々いきいきと暮らすことを目指し、個々の状態に合わせた入居者本位の介護を実践しています。

小牧市郊外の桃や梅畑が広がるのどかな丘陵地に事業所は位置している。特養や通所介護、短期入所生活介護、介護支援事業所が併設され、開設して9年を迎えた。「いつまでも自分らしく居心地の良い生活空間の提供」を理念として掲げ、「入居者の主体性や個性を大切にし、その人の生活習慣を変えず、寝たきりにしない・させない、地域との繋がりを大切に」を職員間で意識し共有して、日々の手厚いケアを心がけている。多くの地域ボランティアの協力があり、認知症カフェ(おくどさんの会)を立ち上げたことにより、地域の方々や仲睦まじく季節や郷土の料理を作ったり、「認知症サポーター講座」を地域で開設して地域との関わりを大切にしており、地域のコミュニティとしての役割も期待されている。明るく、広々とした共用空間には、昭和の食器や用具類が並び、庭の「くど」と共に今も普段の生活で使い、懐かしい思い出を辿りながら過ごせるようにしている。「生涯自力でトイレ排泄」を目指した介助や故郷や墓参りなど職員と共に出かけるなど、本人の生きる力や希望に沿った支援に努めている。地域交流ホールでは、歴史ある雛や五月人形など季節の人形をボランティアの協力を得て飾っている。作品展や夏祭り、炊き出し訓練なども地域の方や家族の協力を得たり、希望やアイデアを取り入れたりして、「オーネスト桃花林」ならではの催しも年々充実をし、地域を含めた皆の楽しみともなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム入り口と職員室には理念を掲示している。毎朝の朝礼で唱和し、行動の指針として共有を図り実践に繋げるようにしている。	理念は皆が目付きやすい玄関や職員室に掲示してある。毎朝の朝礼で唱和すると共に、行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や区の行事には積極的に参加している。	町内会に加入している。地域の清掃活動や区の行事には積極的に参加している。毎年、地域に出向き「認知症サポーター講座」を開設している。多くの地域ボランティアの協力があり、認知症カフェ(おくさんの会)を立ち上げた。地域の住民や有識者等の参加もあり、地域のコミュニティとしての役割を期待されている。近隣の小学校や保育園との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及び職員はキャラバンメイトとして地域包括と共働し認知症サポーター養成講座を企画開催、認知症の啓発に努めている。又、毎年中高生の福祉体験学習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、意見を交わし、サービスの向上に活かしている。参加者より地域の状況説明を受けニーズの把握に努めている。	家族代表や区長、住民代表、ボランティア代表や包括支援センター職員、施設長、GH職員等が出席して2ヶ月に1回開催されている。事業所の運営状況や活動状況を報告したり、参加者より地域の情報を得てニーズの把握に努めたり、意見や要望、アイデアを頂き協議を重ねながらサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れ協力関係を築いている。又、受診事故の発生時には速やかに報告を行うようにしている。	介護保険申請手続きや相談等において、担当窓口を訪れ助言やアドバイスを受けたり、市の介護相談員の訪問等で日頃から密に連絡を取り合い協力関係を築いている。地域包括センターやボランティアと協力して認知症カフェを開催している。研修にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修で身体拘束の内容と弊害の理解をし、拘束しないケアに取り組んでいる。	研修で拘束とは何かを学び、カンファレンスでは具体的な事例を基に検討を重ねている。家族にも拘束の弊害を理解してもらう取り組みをしている。生活の中で拘束感の無い、自由でのんびりできるケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や事例検討で学ぶ機会を持ち理解を図り防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会を持ち、制度を利用されている方の関係者とは連携を図るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホーム代表者と管理者は契約時に契約書・重要事項説明書に基づき十分な説明をし理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしているが利用は無い為、家族会開催時には無記名のアンケートを実施している。面会時には意見や要望を気軽に話せるよう雰囲気作りに努めている。	利用者からは生活の中で意見や要望を聞いたり汲み取っている。家族等からは面会時やイベント時、家族会等で気軽に意見を言える雰囲気作りに努めたり、アンケートを実施し意見や要望の把握に努めている。意見箱の設置をしている。出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議で、職員から意見や提案を聞き、意見交換をし運営に反映できるようにしている。	毎月のグループホーム会議で職員からの意見や提案を聞き、話し合っ運営に反映させている。年2回の自己評価と個人面談があり、管理者や施設長は職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年2回、個々に自己評価を行い施設長と面談を行っている。管理者は、勤務状況や個々の努力に対して認め働く意欲を繋げるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの段階に応じ、内部研修・外部研修への参加を奨励し、勤務のなかで参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム大会などを通じ、友好関係にあるグループホームとは互いに訪問しあい、情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では家族介護の状況、本人の不安や希望を十分に聞き取り思いを受け止め、安心していただける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・見学・自宅訪問・契約の各段階の中で、不安や要望を十分に話せるような働きかけを行い受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いを受けとめ、まず何を必要としているかを見極め、同業者への重複申し込みを勧め情報提供も行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「竈」のご飯炊きなど、職員が入居者の方から教しえて頂く機会を作り、入居者を介護される一方の立場におかず人生の先輩として敬う気持ちを持ち暮らしを共にする関係性を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、文書による近況報告の他、年2回開催している家族会では家族と共に認知症について勉強する機会を持ち一緒に本人を支えていく関係を築く為コミュニケーションを図りながら誠実な対応を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出や墓参り、友人との面会等、家族との調整が難しい場合は入居者に職員が同行し関係継続に努めている。	入居者は近隣の方が多く馴染みの喫茶店や神社、教会、福祉センターなど個々の思い出や希望に沿った場所に出かけたり、友人との面会など馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に取り組んでいる。実家訪問や墓参りなど家族の協力が得難かったり、調整が難しい時は職員が同行したり、故郷の写真を撮ってきたりして入居者の思いに沿った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を見ながら職員が間に入り、見守り・仲裁し、職員も一緒にテーブルを囲み楽しい会話ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了(ご本人の逝去など)しても気軽に立ち寄っていただけるよう、お声がけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中からでる希望や意向に耳を傾け個々の思いの把握に努めている。又、学習療法やハンドリクレストロジーなどマンツーマンで関わる時間を大切に、さりげなく思いを聴く機会を作っている。	日々の生活の中で、傾聴に心がけ、個々の思いや希望を把握するように努めている。学習療法やハンドリクレストロジーなどマンツーマンで関わる時間を大切に、ゆっくりとした時間の中で思いや希望を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生い立ち、経験された事など本人の話された事を情報共有ノートに記し職員間で共有している。又、回想法のセッションで語られた思い出話からも色々な事を知ることが出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のシートを活用しアセスメントをしっかりと行い、その方の有する能力を活かした生活支援ができるようカンファレンスにおいて職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりのケアプランを職員が日々確認できるよう、当日分の行動記録と一緒にファイルしている。毎月モニタリングを行い3ヶ月毎に見直しをおこなっている。	担当制であるが、職員は一人ひとりのケアプランを毎日確認しながらケアをするような体制をとっている。毎月モニタリングを行ない、3ヶ月ごとに計画の見直しをしている。家族や本人と話し合い、主治医や看護師の意見も取り入れながら現状に即した介護計画を作成している。状況の変化により随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録に入居者の24時間の変化、ケアプランにそった実践・結果を記入し入居者の変化を見逃す事無く職員間で情報の共有をし、計画の見直しができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居後も一緒に外出を楽しみたいが、排泄介助や移乗などに不安があるという家族には職員を同行させるなど、出来る限りニーズに対応出来るよう柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマル・インフォーマルを問わず、日常生活を豊かに出来るよう、老人福祉センターの利用や近隣の小学校との交流などを通し暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携しているクリニックより月2回主治医が往診している。歯科・皮膚科・眼科の協力医も往診しており随時受診できる体制をとっている。又、本人・家族が希望するかかりつけ医の受診は家族立会いの元、事業所で送迎の対応をしている。	入居時には本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医が提携医を決めている。かかりつけ医の受診は家族で行なっているが送迎は事業所で行なっている。提携医による往診が月2回あり、歯科・皮膚科・眼科の協力医の往診も随時出来る。受診結果は記録され、申し送り等で周知しケアに活かしている。併設する医務室と連携をし、24時間体制で看護師が対応するなど適切な医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の医務室と連携を図り、日々看護師が健康管理をする他、夜間体制もあり、要請時には待機看護師から対応が受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師が付き添い詳しく情報提供している。管理者は看護師と共に入院先に訪問し、家族・関係者と次の支援に繋げるための話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて説明を行っているが、入居後重度化した場合は改めて説明や意向など事業所のできる最善策を話し合い同意書にサインをいただくようにしている。	重度化や終末期に向けた方針については入居時に説明をしている。重度化した場合は改めて家族や関係者と話し合いを行ない、看取り計画書を作成している。事業所で出来る最善策等を話し合い、同意書を交わして最後まで安らかに過ごせるような支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に消防署の救命講習に参加し緊急時に対応できるようにしている。夜間は緊急対応マニュアルが作成されており、医務室と24時間の連絡体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(地震・火災・夜間を想定)を実施し地域の方々にも参加して頂いている。又こちらからも地域へ出向き区の防災訓練にも参加している。	火災や地震、夜間等を想定した避難訓練を年2回行なっている。地域のボランティアや近隣住民の参加もある。地域の防災訓練にも参加している。災害時には事業所を開放し被災者を受け入れる準備を整えたり、炊き出し等の訓練も実施している。備蓄は3日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉がけや声のトーンなどに気を配り、統一した意識や基準で支援できるよう指導している。	一人ひとりの人格尊重に気配りをしている。家族からの意見も聞きながら、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや声のトーンについて皆で話し合い、統一した基準を作り、意識しながら支援に努めている。排泄時や入浴時等、難聴の方など個々に応じた配慮ある支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のペースで過ごせるよう、急がせず選択できるまで待ち、ゆったりとした対応を心がけ言動を否定せず傾聴するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールはあるが特に決まった日課を作らず自由に過ごせるようにし、その日の状態に合わせて個別の支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は施設内の理美容室を利用できる。有資格者によるハンドリフレクソロジーの施術やネイルケアなどおしゃれができるよう支援し、衣服や化粧品の買い物にも職員が同行で出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭に設置した「竈」でご飯を炊き、四季折々食事を楽しむ事が出来るよう色々な企画をしている。健康状態の良い方は、月に一度居酒屋での飲酒を楽しむ機会も設け入居者の楽しみになっている。	食材は地産地消を基本として新鮮な食材を使用している。菜園の収穫物や近隣からの頂き物、入居者の希望によりメニューの変更もしている。一人ひとりの保有能力を活かしながら、入居者と職員、時にはボランティアと一緒に食事作りや片づけを行なっている。昔懐かしい「竈」でご飯を炊き、四季折々行事食を楽しんだり、月1度の「居酒屋」イベントなども楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量、体重の増減を記録し体調の変化に配慮している。食事の形態は一人ひとりの状態に合わせて食べやすい形態にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じたケアができるように配慮している。又、歯科受診時には職員も一緒にブラッシング指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握する為チェック票を記し、その人に合ったトイレ誘導を心掛けています。オムツゼロに取り組み、立位が保てない方も2名体制で介助しオムツを使用せずトイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握しその人に合ったトイレ誘導を行なっている。「生涯自力でトイレで排泄」や「オムツ0」に取り組み、2人介助での支援や手作りの排泄補助具を使用し、立位が保てない方もトイレで排泄するように支援をしている。パットや着替え用品はトートバックに入れ、さりげない着替えに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	冷水・牛乳・乳酸菌飲料・ヨーグルト等の食品を取り入れる他、朝食後トイレに座る習慣をつけ排便の最も適した前傾姿勢を保てる様、独自でテーブルを作成し活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調を考慮しながら、できるだけ毎日入浴できる環境を作っている。拒否があるときはタイミングを計り、時間を変えたり対応する職員を交代して声をかけるなど個々に合わせた対応をしている。	夕食までの時間帯に毎日入浴できる環境を作っている。湯は毎回入れ替え入浴剤を使用したり、季節のしょうぶ湯やゆず湯、ハーブやフラワー湯を楽しむこともある。入浴拒否がある時にはタイミングをずらしたり、希望により同姓介助を試みたり工夫をしながら対応している。今後デイサービスの大浴場での入浴支援も取り組んでいく予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるよう、ハンドリフレクソロジーを施術したり、寝付けない方には暖かい飲み物を提供するなど職員が寄り添い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにより職員が情報を共有し、医務のアドバイスにより薬の効能・効果・副作用について理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力や好みに合わせた活動の他、回想法・学習療法・ハンドリフレクソロジーなどの導入により生活の活性化を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員は日常生活の中で散歩・買い物・外出等、希望に添って戸外で出かけられるよう支援している。又、家族との外出で不安がある場合は職員が同行し本人の希望が叶えられるよう支援している。	自然環境に恵まれた施設の周りを散歩したり買い物や外食等、日常的に外出をしている。車椅子の方でも出来るだけ希望に添った外出が出来るよう支援をしている。家族との外出に不安がある場合や、家族の協力が得られない場合は職員が同行し本人の希望が叶えられるように支援をしている。皆で犬山やいるか池に出かけ青空会食をしたり、同施設内の老人ホームに便乗して遠出をすることもできる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の小口現金は事務所で管理し、収支を定期的に報告している。お金の管理が出来る方は、常時財布を持ち買い物に行った時は支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の規制はせず電話の希望がある時はその都度対応し、本人自らやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは昭和の茶の間を再現懐かしい雰囲気を中心地よく寛げるようにし、庭には「竈」を設置している。 食堂椅子は体型に合った42cm・40cm・38cmの三種類の座高面が選べるようにし、それぞれの体格に合わせている。	広く明るい共用空間は温湿度が調整され快適に保たれている。リビングには懐かしい昭和の食器や用具類が並び、庭の「竈」と共に今も普段の生活で使え、郷愁を誘い懐かしさに浸れる居心地の良い空間となっている。本人の体格や姿勢に合わせた3種類の椅子が用意され、正しい姿勢で誤嚥がなく食事ができるように配慮されている。雛人形や豪華な内掛けが飾られているリビング兼ダイニングキッチンで入居者は生き生きと自分の個性にあった生活を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも独りになれるようにセミプライベートゾーンを設け、ゆっくり外を眺めながら休息できる場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりの個性や生活リズムに沿ってその人らしい生活が継続できるよう家族の協力を得て使い慣れた家具や馴染みの物、家族の写真などを配置し居心地の良い暖かい雰囲気が感じられるよう工夫している。	家族の協力を得て使い慣れた家具やこたつ、椅子などを置いたり、馴染みの小物や写真、自分で作った作品などを飾り、心地よい自分の居場所作りを工夫している。入居者の希望で生花や鉢植えなどが置かれ、より本人らしい居室環境を醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今年度は、食べるときの姿勢・テーブル・椅子などの環境面を見直し入居者それぞれの体格に合わせた高さの家具を導入している。又、トイレの表示・居室の表札・時計・カレンダー等は入居者の視線に入る高さに整えている。		